

第3回山形市中心市街地活性化戦略本部会議議事録

1 開催日時 平成29年6月15日(木) 午後3時00分～5時00分

2 会場 山形商工会議所 5階 会議室

3 出席者

(1) 本部員9名

山形市長		佐藤 孝弘
山形商工会議所	会頭	清野 伸昭
山形市中心商店街まちづくり協議会	会長	多田 一夫
山形市観光協会	会長	平井 康博
山形青年会議所	理事長	武田 靖裕
山形大学	教授	山田 浩久
東北芸術工科大学	教授	馬場 正尊
城下町やまがた探険隊	代表	新関 芳則
NPO 法人やまがた育児サークルランド	代表	野口 比呂美

(2) 山形市中心市街地活性化戦略推進コーディネーター

まちづくりプラン研究所 代表 牧 昭市

(3) 事務局15名

商工観光部長、山形ブランド推進課長、山形ブランド推進課課長補佐、
街なか・商業グループリーダー、街なか・商業グループ員(3名)、
山形銀行派遣職員、山形商工会議所(5名)、
山形商工会議所まち賑わい委員会委員長、
山形市中心商店街街づくり協議会副会長

(4) 調査実施機関3名

(株)山形街づくりサポートセンター社長、常務、事務員

4 傍聴者

一般傍聴者：5名

記者：2名

5 内容

(1) 報告

<山形市中心市街地活性化戦略本部より報告>

・山形市中心市街地活性化戦略推進コーディネーターの委嘱について

<山形市中心市街地活性化プロジェクト本部より報告>

- ・調査実施機関の決定について
- ・商店街への説明会の結果について

(2) 協議

- ・グランドデザイン策定項目について
- ・その他

6 資料の名称

資料1 商工月報5月号の記事

資料2 グランドデザイン策定に関する検討実施項目

資料3 山形市中心市街地駐車場配置図

7 議事録

(1) 開会 (山形ブランド推進課長)

(2) 市長あいさつ

(3) 議事録署名人の指名 (本部長)

新関 芳則 本部員

野口 比呂美 本部員

(4) 報告

<山形市中心市街地活性化戦略本部より報告>

- ・山形市中心市街地活性化戦略推進コーディネーターの委嘱について

<山形市中心市街地活性化プロジェクト本部より報告>

- ・調査実施機関の決定について
- ・商店街への説明会の結果について

(5) 協議 (内容は以下のとおり)

座 長	「グランドデザインの策定に関する検討実施項目」について、協議を行っていきたいと思う。 ここからは、牧コーディネーターよりご説明いただきながら、進行もお願いする。
-----	---

コーディネーター	(「グランドデザイン策定に関する検討実施項目」について説明)
----------	--------------------------------

本部員	直接的に、私どもに関係があるのは「子育て環境の構築に関する方向性」だが、山形市の計画の中に位置付けられることで、子育て支援の側面だけでなく、中心市街地の活性化に資する取組として協力ができたらと思っている。また、この項目の並びは市民にとってもわかりやすい方がいいと思う。 あと、組織については、いろいろな組織がある中、それを取りまとめる方向よりは、それぞれの強みを生かして連携していく考え方の方がいいと思う。
-----	--

本部員	私も山形市は、エリアごとのイメージが盲爆としていて、強い核はないという印象がある。 まず戦略的なエリアを選定して、そこがはっきり変わっていくというサクセスストーリーを、小さなエリアが複数同時に起こることで、街のコアが浮き上がってくるような戦
-----	---

略が山形には似つかわしいのではないかと考えていた。組織については、いろいろあるまちづくり会社の変化を大きく包み込み、サポートする組織があるといいと思う。エリアを細分化しながら競争するという新しいグランドデザインを構想できないかと思っている。

本 部 員 商業集積は郊外の方がされているのに対し、固定資産税の割合は中心市街地の方が高くなっているため、税体系のところを見直す必要があるのではないかと。先ほどコアという部分が必要だということがあったが、山形市は文化的な建物として文翔館、旧済生館、教育資料館などの重要文化財になっている古い建物が現存している。霞城公園から必ずどこかに移させなければならないとすると、文翔館を中心に、県民会館の跡地利用など、全て市単独ではできないので、市と県が一体となって進めていかないと、グランドデザインもできないのではないかと。交通については、IC カードの導入は、民間の立場からすると、投資した分をいかに回収できるかという問題が非常に大きい。観光客の対応については、商店街と話し合いながら、一緒にお客さんを迎える気持ちがこれからもっと必要だと思う。駐車場については、固定資産税等の固定費を賄うために駐車場にせざるをえないところがあるため、その部分を整理していくことで駐車場も集約されていくと思う。

本 部 員 山形市の中心市街地活性化基本計画は、補助事業に対するハード中心の計画だったという感じがしている。そこに、グランドデザインを描き、戦略的にしっかりしたものが需要だというのが課題なのではないかと思っている。また、まちづくりの基本的なグランドデザインを描き、それを実行していく組織を作っていく必要があると感じていると同時に、様々なまちづくり会社が共通の目標のもと動き出すという形を取らなければ難しいという感じもしている。

本 部 員 山形市は県と連携して土地の利用を検討していく必要がある。市民会館と保健所のところに県庁をもってきたらどうかという意見も出ている。県庁も老朽化してきているので、どこかに作り直すという考えを必ず持っていると思う。そ

ういったものをいち早く、候補地として提案するといったこともやっていく必要があると思う。

もう一つの例として、県病跡地がある。

県民会館の跡地利用も見えてこない。したがってエリアの人もやる気が出てこない。そんなジレンマがあるのではないかと思っている。

また、行政の中に中心市街地活性化の課を作る必要があると思っている。

本 部 員 まちづくり組織の乱立について、乱立が特に悪いものではないと考えている。それぞれ目的や趣旨が違う中で、大きな未来のランドデザインを作り、方向性を同じくして、それを引っ張るリーディングカンパニーとして統合するのではなく、多くの賛同を得られるようなリーディングカンパニーを作り、その中で各団体同士が同じ方向を向き行動した方が大きな力になると思う。

中心市街地の情報発信については、駐車場やイベントの情報を含め、フラットで公平なポータルサイトがあれば、使われやすくなると思う。

また、中心市街地でイベントを行うにあたり、「ほっとなる広場」しかない現状であるため、住民参加型のイベントができるゾーンやエリアがあればありがたい。

本 部 員 市民が中心市街地の再開発にどれほどの興味があるかという調査をするのであれば、中心市街地に来なくなってしまった市民の方が、なぜ中心市街地に来なくなってしまったかを調べれば面白い。

観光客の話をする、山形市は今でも少ないと言われるが、山寺と蔵王に限ってはものすごく来ている。その人たちが街なかにも来ない。それも中心市街地の活性化に興味があれば街なかに向かうだろうし、街なかの観光客も増えるだろう。

中心市街地の活性化をやるのであれば、外側に対しての意識をランドデザインに加えていただきたい。

この項目の中で入っていないもので加えるとする、災害、安全・安心という部分。災害が起こった時に、行政サービスとして提供できるものがこれからの都市計画の中に必要になってくると思う。

本 部 員 街なかの回遊性という部分において、コアになる部分が不足しているというのは否めない。

分散している山形市の中心市街地の歴史や文化、食といったところを散策して回るといふ、「ぶらぶら散歩」で「ブラぼ」といふ活動をさせていただいているが、地道な山形市街地をクローズアップさせていく活動だろうと理解している。

また、まちづくり、デザインも含め、どこにターゲットを向けていくのか。

観光やビジネスも含めて交流人口が増加することが最大の目標で人口減少が最大の敵だと思う。

中心市街地の駐車場が増えていっているというのは、背に腹は代えられないという部分があるのかなと強く思う。

事業を展開し、賑わいを創出し、集客をすることによって、回遊性が高まるということで、連携を図ろうとしているが、現実問題として、まず駐車場でも作らないと収益に繋がらないところがあり、その辺がクリアにされると非常にパワーが沸くという思いが実感としてある。

座 長 この項目をベースにして検討していきたい。

まず、山形市の魅力を高め、定住人口・交流人口を増やしていきたい、というのが市全体としての課題。その中における中心市街地がどうかということだと思う。

大規模商業施設は山形市の周辺自治体にもあるが、そこにない魅力をどのようにして中心市街地に表現できるかと思っており、それは県内で一番人口が多い山形市がすべきであるし、その前提にある歴史性においては、城下町山形であるので、何物にも代えがたいという意味で中心市街地が非常に大事だと思っている。

空き店舗をどうしていくか。空き店舗に市民ニーズにあったものを入れていくことによって、トータルで魅力が増すということは極めて重要だと思っており、その前提にグランドデザインがあったうえで、具体的な空き店舗を埋めるという動きがある。

グランドデザインについては、エリアごとのイメージが明確ではないため、エリアごとのイメージづくりが重要だと思っている。

どこを核にという議論があったが、一つは御殿堰、もう一つは駅前だと思っている。そこがありつつ各エリアの、シネマ通りだとかですね、イメージを作っていければというふうに思っております。そうした各エリアのイメージとその役割についてしっかりと議論していきたい。

また、まちづくり会社については、グランドデザインを作

ったときに、いろいろな主体を同じ方向で巻き込むための主体が必要だと思うので、その役割をどういう主体が担うのかを考えていかなければならないと思っている。
県との関係も考えていかなければならないと思う。
山形市としての理想をしっかりと議論して、そして提案するというのが大事だと思う。県民会館の跡地をどうするか、県立中央病院の跡地をどうするかを、このグランドデザインの策定の中で、我々としての考え方を作って提案したいと思うし、場合によっては途中段階でも県との意見交換をしていく必要があると思っている。

コーディネーター グランドデザインは、7割方がルールで、3割方がイメージ。イメージパース的なもので、そんなふうになるんだったら街に関わろうかなと思ってもらえるようなイメージの造成を行っていくことになる。

また、山形市中心部において、他の街にあってないものが余白。余白というのは公園かもしれないし、要はみんなが集う空間。何かイベントをやろうと思ってもやる場所がない。その辺を含めて検討していく必要がある。

いただいたご意見をもとに、次回、何かしらの絵も少し出していきながら、次のステップに入っていかなければならないと思っている。

本 部 員 余白空間も素晴らしいご意見だと思うし、それが街に活きると思う。

逆に、ここはもったいないという場所は、済生館の横の御殿堰。あそこに侵入してくる人が非常に少ない。済生館の関係者は通るが、そういう余白という空間がちょっともったいない空間があります。

もちろん新たな余白を生み出すということも必要だが、洗い直しをするとまだまだイベントの仕掛けや有効活用できる空間はもっとあると思う。

本 部 員 ターゲットの不一致というのがあるが、観光客や子育てをしようとするお母さんとかターゲットを決めて市街地を見直していけば議論をする項目が絞れるのではないかと。

本 部 員 グランドデザインの策定に関する検討実施項目は22項目あるが、その共通点は何だろうか。また、同時に、近々に解決しなければならない課題は何だろうかということをお話し合っていて、どのようにしていったらいいかを考えること

が必要ではないか。

本 部 員 1年目は調査や冷静な分析がされていなかったと思うので、それに充てられ、それを踏まえた上でのターゲットニングなのかなと思っている。

もう一度街なかを居住地として捉え直す考え方もあるかなと感じている。1回住みながら商いをしていた人は、大きい施策によって郊外に出ていったわけだが、もう1回病院もある便利な都心に戻りながら商売をし、都市生活を楽しむというような感覚もあるのかなと思った。

本 部 員 街なかに住んでいた商店の方々が、店を残して郊外にいつているという矛盾があるのではと思う時がある。その人たちも街なかに戻ってきてもらうという一つの試みも、考え直す必要があるのではないだろうか。自分たちが消費者になるというようなことも考えていかなければならないのではという気がする。そのために、戻ってきて10年住んだ時に固定資産税を減免するとか、そういう措置も必要になってくるのではと思う。

コーディネーター 今、お聞きしたことを踏まえ、グランドデザインやゾーニング、戦略的エリアの仮想プランを何プランか次回挙げさせていただく。その仮想プランをもって、方向性等を話し合いさせていただきたい。

また、ターゲットを分析するにしても、何にもデータがないため、この一年は、調査を含め分析と、どういう方向性のゾーンや戦略的エリア選定の部分の議論をしていきながら、来年に向けて最終的なデザインの仕上げに入っていくということで考えていければと思っている。

本日のお時間の関係もありますので、この議論についてはいったん終了させていただき、その後組織の部分のお話をさせていただければと思うが、よろしいでしょうか。

座 長 はい、ありがとうございました。
それでは次に協議の「その他」に入ります。
ここからは会議を非公開とさせていただきますので報道陣の皆様並びに傍聴者の皆様はご退席願えればと思います。

~~~~~ 報道陣・傍聴者退席 ~~~~~

以下、非公開部分

(6) 閉会 (山形ブランド推進課長)